

令和2年3月27日

令和2年第一回都議会定例会を終えて（談話）

東京都議会自由民主党幹事長 鈴木 章浩

本日、令和2年第一回定例会は終了しました。

はじめに、名誉都民宮城まり子様には、3月21日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、去る3月9日、我が党の古賀俊昭議員が急逝されました。突然の悲報に際し、未だ信じられない思いです。

古賀先生は、都議会議員7期26年の間、我が国の歴史と文化を正しく理解し、日本人の誇りを取り戻すことを信念に議員活動に取り組まれました。とりわけ「北朝鮮による日本人拉致問題の完全解決を図る東京都議会議員連盟」や「花粉症対策推進議員連盟」では議連会長として、両問題の解決に向けて全身全霊をかけて取り組んでこられました。残念ながら、その目標を達成することなくこの度、他界されたことは、誠に無念であったと痛惜の思いであります。これからも天上界から、我々議員を叱咤激励して頂くよう望んでおります。

さて、今定例会では、令和二年度当初予算案をはじめ知事提出の議案等について 精力的に審議し政策論争を交わしました。

まず、築地再開発についてです。

これまで我が党は、幾度となく本計画を再考するよう主張してきました。都が土地を所有したまま70年にわたり賃借料を回収し続けるという無責任なまちづくりは、将来の都民に大きな負担を残します。そうした中、3月24日我が党の締め括り質疑に対し、知事は「築地まちづくり方針」について、「内容の見直しを行う」と答弁しました。これは、これまでの我が党の指摘をやっと理解し、都民に責任ある都政を果たしていく上で、重要な決断をしたと考えております。

次に、都民が一刻も早い収束を望む新型コロナウイルスについてです。

都内での感染者数が全国最多の259人に上り、感染爆発の重大局面を迎えています。昨日、国は特別措置法に基づく「政府対策本部」を設置しました。今後、都民の皆さんへの影響が広範囲に及ぶことから、我が党は会派内に幹事長を座長とする「緊急対策チーム」を設置し迅速・的確な対応が取れるよう体制を強化しました。

都民の皆様には、引続きご不便とご不自由をお掛けすることになりますが、感染爆発の発生回避に向けて、外出自粛等にご理解ご協力をお願い申し上げます。

知事には、緊急事態宣言が発令された場合も想定し、特措法に基づく知事権限行使に伴う各種対策の運用について、区市町村等との役割分担、関係機関との調整等に係る実施要領を事前に作成するとともに、最悪の事態を想定した感染拡大防止策等のシミュレーションを行うなど、万全の準備をしておくよう強く求めました。

次に、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会についてです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、開催が1年延期されましたが、アスリートの皆さんが存分にその実力を発揮し、日本国内、世界から訪れる皆さまが安心して競技を観戦できる大会を、この東京で完全な形で成功させるために、全力で取組むよう求めました。また、大会開催時の輸送対策については、企業や都民の理解と協力を得られるよう、引続き取組んでいくことも求めました。

次に、「旧こどもの城」跡地開発についてです。

525億円を投じて国から取得した土地・建物について、都は中期利用を図るため「(仮称)都民の城改修基本計画」を発表しました。しかし、令和十一年までの中期利用のため、136億円もの改修費用が必要としています。名称は「(仮称)都民の城」ですが、その実体は単なるハコモノの域を出ておりません。中途半端な目的を後付けした施設の改修に、136億円もの税金を使うことは、決してワイズスペンディングではないと指摘しました。

最後に、都区財調制度の見直しについてです。

今回、児童相談所の3区への設置に伴い、区側の配分割合を0.1パーセント引き上げることが提案され決定されました。これは、今後の都の財政運営にも直接影響する重大な内容です。しかし、その変更は明確な内訳や積算に基づくものではなく、将来に禍根を残す過去に例のない無責任な決定となりました。

知事は子供を虐待から守る条例をつくるだけでなく、本来は、子供と家庭を守り支援するための体制や考え方がどうあるべきか、事前に区長会に対して、都としての児童相談業務のあり方を明確に示すべきでした。

そして、令和4年度の見直し時には、今回の、0.1パーセントも含めて、都区財調の本来ルールに戻して、ゼロベースで協議すること強く求めました。

その他にも、指摘すべき問題が多々ありましたが、知事が我が会派の求めに応じて「築地まちづくり方針」を見直すと決断したことを踏まえ、知事提出の全議案に賛成しました。

我々都議会自民党は、引続き都民の与党として、二元代表制のもとで、都政を前に進めるための提言を行い、都民のための都政実現に向け、全力を傾けていくことをお約束申し上げます。